

本資料は 2020 年 7 月 30 日にチューリッヒで発表されたメディアリリースの翻訳版（要旨）です

2020 年第 2 四半期の業績

上半期の純利益は過去 10 年間で最高の 25 億スイス・フラン¹

- 2020 年第 2 四半期の税引前利益は、前年同期比 19% 増の 16 億スイス・フランとなりました。株主帰属純利益は同 24% 増の 12 億スイス・フラン、純収益は同 11% 増の 62 億スイス・フランとなりました。
- 2020 年第 2 四半期の有形株主資本利益率（RoTE）は 11.0% となりました。
- 2020 年上半期の税引前利益は、前年同期比 16% 増の 28 億スイス・フランとなりました。株主帰属純利益は同 47% 増の 25 億スイス・フラン、純収益は同 9% 増の 120 億スイス・フランとなりました。
- 2020 年上半期の RoTE は 12.0% となりました。
- 2020 年第 2 四半期の CET1 比率は前四半期末の 12.1% から 12.5% に上昇しました。ティア 1 レバレッジ比率は前四半期末の 5.8% から 6.2% に上昇しました²。
- 2020 年第 2 四半期末の総運用資産は 1.4 兆スイス・フランでした。
- 2020 年第 2 四半期の新規純資産は、前四半期の 58 億スイス・フランに対して 98 億スイス・フランでした。2020 年上半期の新規純資産は 156 億スイス・フランでした。

クレディ・スイス・グループ AG の会長、ウルス・ローナーは次のように述べています。

「クレディ・スイスは、実績ある戦略、堅牢な資本基盤、滞りなく実施された機動的な危機対応のおかげで、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大という問題に強固な立ち位置から効果的に対処し、2020 年上半期は極めて良好な業績を収めました。取締役会は、2020 年上半期の良好な業績をふまえ、当初 2019 年度に株主の皆様へ提案していたとおり、満額となる 1 株当たりグロス 0.2776 スイス・フランの第 2 回の配当を予定しています。これは 2020 年 11 月 27 日に開催される臨時株主総会での承認を条件とし、また市場環境および経済環境に応じて行うこととなります。」

クレディ・スイス・グループ AG の最高経営責任者（CEO）、トーマス・ゴットシュタインは次のように述べています。

「変動の激しい市場環境が続く中、クレディ・スイスは堅調な業績を収めました。新型コロナウイルスによる厳しい環境が長引く中で、従業員は当期も強いコミットメントと優れた取り組みをもって尽力してくれました。2020 年第 2 四半期の RoTE は 11.0%、上半期は 12.0% となり、新型コロナウイルスの感染拡大以前に目指していた 2020 年の RoTE を 10% 程度にすると目標を達成し、グローバル投資銀行機能を有する代表的なウェルス・マネージャーとして、当行の統合されたビジネス・モデルの強靭性が示されました。市場環境が混乱を極める中、クレディ・スイスは第 2 四半期の CET1 比率も 12.5% へと向上させることができました。上半期の好調な業績を受け、クレディ・スイスの事業戦略を再確認いただくとともに、今後実施を予定している幾つかの組織改革についてお知らせいたします。この変革によって、有効性と効率性を高める大きな潜在能力を引き出し、必要な先見性をもって現在の環境を乗り切り、お客様の利益のために将来のさらなる成長の可能性を切り開くことができると考えます。」

クレディ・スイス・グループ (単位：百万スイス・フラン)	2Q20	1Q20	2Q19	2Q19 からの 変動		1H20	1H19	1H19 からの 変動
純収益	6,194	5,776	5,581	11%		11,970	10,968	9%
貸倒引当金	296	568	25	-		864	106	-
営業費用合計	4,347	4,007	4,254	2%		8,354	8,498	(2)%
税引前利益	1,551	1,201	1,302	19%		2,752	2,364	16%
株主帰属純利益	1,162	1,314	937	24%		2,476	1,686	47%
有形株主資本利益率(%)	11.0	13.1	9.7	-		12.0	8.7	-

CET1資本	37,346	36,332	36,394	3%		37,346	36,394	3%
CET1比率(%)	12.5	12.1	12.5	-		12.5	12.5	-
CET1レバレッジ比率(%) ³	4.5	4.2	4.1	-		4.5	4.1	-
ティア1レバレッジ比率(%) ²	6.2	5.8	5.3	-		6.2	5.3	-

概要

前四半期に続き、2020年第2四半期の業績も新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を大きく受けました。新型コロナウイルスによる厳しい環境や地政学的な問題が続いているにも関わらず、収益性は2019年第2四半期と比較して著しく上昇しました。税引前利益は前年同期比19%増の16億スイス・フランとなった一方、株主帰属純利益は同24%増の12億スイス・フランとなり、第2四半期としてはこの10年間における最高値を記録しました。2020年上半期の税引前利益は前年同期比16%増の28億スイス・フラン、株主帰属純利益は47%増の25億スイス・フランとなり、こちらも上半期としてはこの10年間における最高値となりました。営業レバレッジは15四半期連続でプラスとなりました。純収益は前年同期比11%増の62億スイス・フランとなり、43億スイス・フラン（前年同期比2%増）の総営業費用を相殺して余りある水準でした。2020年上半期の純収益は前年同期比9%増の120億スイス・フラン、総営業費用は同2%減の84億スイス・フランでした。2020年第2四半期のRoTEは11.0%、2020年上半期は12.0%、また過去12カ月間でみれば10.4%と、いずれも新型コロナウイルス感染拡大以前の2020年目標値である10%程度を上回っています。

クレディ・スイスのプライベート・バンキング事業⁴は2020年第2四半期に堅調な実績をあげ、純収益は前年同期比3%減と小幅な減少にとどまりました。これは主に、安定的なトランザクション・ベースの収益、経常収益の減少（同11%減）、および純金利収益の小幅な減少（同3%減）を反映しています。2020年上半期の純収益は前年同期比4%増となりました。為替レートの変動調整後で見ると、純収益は2020年第2四半期⁵は前年同期比横ばい、2020年上半期⁶は同8%増となりました。

2020年第2四半期のインベストメント・バンキング全体⁷の純収益は、米ドルベースで前年同期比38%増加しました。これはポートフォリオの分散化を図ったことによるもので、インベストメント・バンキング&キャピタル・マーケット（IBCM）部門の純収益は前年同期比61%増加し、マーケット・アクティビティ⁸部門の純収益は同33%増加しました。2020年上半期については、インベストメント・バンキング全体⁷の純収益は米ドルベースで前年同期比25%増加しました。

厳しい経済環境を反映し、2020年第2四半期に貸倒損失引当金を追加で2億9,600万スイス・フラン計上しました。このうち1億3,000万スイス・フランは、米国一般会計原則（GAAP）の下で最近導入された現在予想信用損失（CECL）手法に関連するものです。2020年上半期には8億6,400万スイス・フランの貸倒損失引当金を繰り入れましたが、このうち4億3,500万スイス・フランはCECL

に関連したものです。2020 年上半期の貸倒損失引当金は、過去 10 年間の上半期における貸倒損失引当金の平均の 12 倍に相当する額で、現環境下での問題の深刻さを示すものの、それと共に底堅い収益性を備えたクレディ・スイスの統合されたビジネス・モデルの強靱性も示すものとなりました。

2020 年第 2 四半期の事業全般にわたる新規純資産は 98 億スイス・フランで、インターナショナル・ウエルス・マネジメント (IWM) 部門が 59 億スイス・フラン、アジア太平洋 (APAC) 部門が 45 億スイス・フラン、スイス・ユニバーサル・バンク (SUB) 部門については横ばいとなりました。2020 年第 2 四半期の運用資産は 1.4 兆スイス・フランと前四半期比で横ばいとなりました。市場が好ましい方向に変動したことによって、為替レートの悪影響が大幅に相殺されました。2020 年上半期の新規純資産合計は 156 億スイス・フランで、内訳は SUB が 6 億スイス・フラン、IWM が 97 億スイス・フラン、APAC が 75 億スイス・フランでした。プライベート・バンキング部門のみ⁴の 2020 年第 2 四半期の新規純資産は 47 億スイス・フラン、2020 年上半期については 72 億スイス・フランでした。

2020 年第 2 四半期末の資本状況は引き続き健全であり、強靱で分散化されたビジネス・モデルと構造的な資本創出の結果、CET1 比率は 2020 年第 1 四半期の 12.1% に対して 12.5% となりました。2020 年第 2 四半期末のティア 1 レバレッジ比率は、ティア 1 資本の増加とレバレッジ・エクスポージャーの低下を受けて、2020 年第 1 四半期末の 5.8% から 6.2% に上昇しました²。

クレディ・スイスは、数年にわたる再編と再配置の成功と 2020 年第 2 四半期の良好な業績を受け、強力なグローバル投資銀行機能を有する代表的なウエルス・マネージャーとしての戦略を再確認しました。クレディ・スイスは、一連の構造改革と投資イニシアティブを立ち上げ、今後数年にわたり株主の皆様にお届けする財務的な利益をさらに増やしていく所存です。戦略のアップデートについては、本日 (7 月 30 日) 朝に別途発表いたしました。

見通し

2020 年第 2 四半期および上半期の好調な業績は、クレディ・スイスの統合されたビジネス・モデルの健全性と強靱性を再確認させ、RoTE は 2 桁台を達成しました。新型コロナウイルス危機の経済に対する悪影響や回復への道筋を評価することは依然困難ですが、引当に関する米国 GAAP の CECL アプローチは、一般的にみて潜在的な貸倒損失の早期認識につながると考えられます。さらに、融資残高全体の相当部分は担保の裏付けがあり、収益性が高く堅調なスイス国内市場での業務は、これまで貸倒損失が少なく済んでいました。米ドル金利に対する逆風は続く可能性が高いものの、スイス・フラン建ての事業から、より安定的な純金利収益が得られると考えています。

この数カ月、資本市場は効果的に機能してきたため、世界の企業はリファイナンスが可能となっており、この傾向は持続すると予想されます。クレディ・スイスのトレーディングやトランザクション・ベースの取引活動は、高止まりの水準から落ち着きをみせていますが、乱高下は続くと思われ、お客様への支援の機会を引き続き提供していく所存です。クレディ・スイスは変化のペースを加速させ、お客様へのサービスに関して組織の実効性を高め、さらなる成長投資とあらゆる部門にわたるデジタル化への取り組みを続けるために効率性を高めて参ります。クレディ・スイスは、新型コロナウイルスの潜在的なリスクの増大や地政学的な不確実性の高まりに対して十分な備えができており、この困難な時期においても強靱な財務パフォーマンスと健全な資本状況を維持できると確信しています。

資本分配

2020 年上半期の堅調な業績を受けて、当初 2019 年度に株主の皆様提案していたとおり、満額となる 1 株当たりグロス 0.2776 スイス・フランの配当を予定しています。このため取締役会は、市場および経済環境を勘案し、また新型コロナウイルス対策に関するスイス連邦参事会の条例に従い、2020 年 11 月 27 日に開催される臨時株主総会において第 1 回の配当と同額の 1 株当たりグロス 0.1388 スイス・フランの第 2 回配当案について承認を求める予定です。

取締役会は、市場および経済環境を勘案し、臨時株主総会の後、2020 年の自社株買いプログラムを見直す意向です。2020 年第 1 四半期は、現行のプログラムの下で、休止前まで総額 3 億 2,500 万スイス・フランを投じて 2,850 万株の自社株買いを行いました。

中期的には、正常化した環境であれば市場および経済環境を勘案し、純利益の少なくとも 50% を株主の皆様分配到る予定です。普通配当については、引き続き年 5% 以上の増配を目指していく意向です。そのために、2020 年の配当もこれに沿って実施して参りました。

本資料はクレディ・スイス・グループが発表したメディアリリースの翻訳版（要旨）です。メディアリリースの正確な内容は、クレディ・スイス・グループの [ウェブサイト](#) に掲載されたオリジナル版をご参照ください。

注： 2020 年第 2 四半期の業績には、ファンドブリーフバンクへの株式投資の再評価に係る 1 億 3,400 万スイス・フランの利益が含まれています。2020 年第 1 四半期および 2019 年第 3 四半期の業績には、インベストラボのファンド・プラットフォームのオールファンズ・グループへの譲渡に関する利益（それぞれ 2 億 6,800 万スイス・フランおよび 3 億 2,700 万スイス・フラン）が含まれています。2019 年第 4 四半期の業績には、SIX グループ AG への株式投資の再評価に係る 4 億 9,800 万スイス・フランの利益が含まれています。

1. 株主に帰属する純利益を指します。
2. 中央銀行預け金を含めると、2020 年第 2 四半期のティア 1 レバレッジ比率は 5.5%、2020 年第 1 四半期は 5.3% でした。
3. 中央銀行預け金を含めると、2020 年第 2 四半期の CET1 レバレッジ比率は 4.0%、2020 年第 1 四半期は 3.8% でした。
4. スイス・ユニバーサル・バンキング（SUB）部門のプライベート顧客、インターナショナル・ウエルス・マネジメント（IWM）部門のプライベート・バンキングおよびウエルス・マネジメント & コネクテッド部門内のアジア太平洋（APAC）プライベート・バンキング部門を含みます。
5. 2020 年第 2 四半期における為替レートのマイナスの影響 8,500 万スイス・フランを控除しています。基礎となる収益については一律に 2019 年上半期の平均為替レート（毎月のレートの単純平均を使用）を適用しています。
6. 2020 年上半期における為替レートのマイナスの影響 1 億 6,500 万スイス・フランを控除しています。基礎となる収益については一律に 2019 年上半期の平均為替レート（毎月のレートの単純平均を使用）を適用しています。
7. グローバル・マーケッツ部門、APAC マーケッツ部門およびインベストメント・バンキング & キャピタル・マーケッツ部門を含みます。
8. グローバル・マーケッツ部門および APAC マーケッツ部門を含みます。